

# 2016年度 センター試験 本試験 世界史 B

## 第1問 世界史上の宮廷や宮廷文化

出題範囲	紀元前～18世紀の王家，王室と宮廷文化
難易度	★★★☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	2016年度の第1問の出題は4択式による解答で，地図による地名選択，整序問題などが網羅されており，例年どおりの傾向と言える。文化史に関する問題が多かったことが，平均点を下げる要因となった。多くは基礎問題だが，問3と問9には注意が必要だ。特に，問3に登場するルネサンス期の画家，ホルバインは教科書ではあまり大きく扱われていないが，教科書や参考書の欄外の情報，先生が授業中に話す雑談なども余さず記憶しておけば，こうした問題にも対応できる。問9の整序問題で悩む受験生が多いだろうが，人物や出来事と時代背景をリンクさせて覚えておけば正解できる。

### A

問1  正解は④

難易度 ★★★☆☆

#### 解説

世界史上に登場する皇帝の事績に関する問題。出題分野は①フランス革命とナポレオン，②ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生，③東アジア文化圏の形成，④東ヨーロッパ世界の成立，である。誤っている選択肢の事績が誰のものなのかも確認しておこう。④に関しては，イヴァン3世とイヴァン4世の事績が混同しやすいので，注意が必要である。

- ① 誤 **大陸封鎖令**を発布したのは，**ナポレオン1世**。大陸封鎖令は，イギリスに経済的な打撃を与えるために，大陸諸国とイギリス間の通商・交通を全面的に禁止するものであった。加えて，フランス産業資本によるヨーロッパ市場の独占ももくろんだ。しかし，結果として大陸諸国の経済活動に大きな打撃を与えることとなり，ナポレオンに対する反抗心が高まった。ロシアは，大陸封鎖令を破ってイギリスとの交易を再開し，それを裏切り行為と捉えたナポレオンは1812年にロシア遠征を行ったが，失敗に終わった。
- ② 誤 **社会主義者鎮圧法**を制定したのは，**ビスマルク**。ビスマルクは，1878年に社会主義的結社の禁止，集会・出版の制限などを規定する社会主義者鎮圧法を制定した。この法律は，ビスマルクの「アメとムチ」政策の「ムチ」にあたった。反対に，ビスマルクは**社会政策**に力を入れ，保険制度を整備した。こちらは，「アメ」にあたり，この政策を通して労働者を社会主義運動から切り離す目的も裏にはあった。
- ③ 誤 **則天武后**は，高宗の後であり，690年に即位した。その際に，彼女は国号を**周**と改めた。彼女はその後，周の制度を模範として仏教の保護，大土木事業などを強行した。また，科挙官僚から有能な人材を登用して，**門閥貴族を退けた**。ちなみに，国号を**新**と称したのは，**王莽**。

- ④ 正 **イヴァン 3 世**は、キプチャク＝ハン国から**モスクワ大公国**を自立させ、ローマ帝国の後継者として**ツァーリ**の称号を用い、自らをギリシア正教の庇護者と称した（**イヴァン 4 世**は、ツァーリの称号を**公式**に使用した）。

問 2 2 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

**解説**

世界史上の税や税制に関する問題。出題分野は①中国の古典文明、②西ヨーロッパ世界の成立、③アメリカ独立革命、④南アジア・東南アジアの植民地化、である。この問題においては、どのような課税を行ったか（専売や税の名称など）、誰に対する課税であったか（問題に「～に対する」「○○（国・地域）で」など記述がある）、の 2 点を検討する必要がある。税や税制に関する問題は頻繁に出題されるため、確認しておくことを勧める。

- ① 誤 漢の**武帝**が実施したのは、**塩・鉄・酒**の専売で、さらに均輸法や平準法を制定した。これらの政策の背景には、積極的な外征を行ったために生じた財政難があった。
- ② 誤 ローマ＝カトリック教会は、**農奴**に対して**十分の一税**（収穫の十分の一を納める）を課した。他にも、賦役や領主への貢納が農奴の負担として設けられていた。
- ③ 正 北アメリカの**13 植民地**は、本国による**印紙税**に反対して、「代表なくして課税なし」(No taxation without representation) と主張した。イギリス政府は、本国での財政難を理由に、新聞・パンフレットなどあらゆる植民地の文書に収入印紙を貼らせる印紙法を定めた。これに反対したパトリック＝ヘンリは、植民地はイギリスの議会に代表を送っていないから、イギリス政府には植民地に課税する権利を持たないことを主張した。
- ④ 誤 **ライヤットワリー制**が導入されたのは、**インド帝国**。この徴税制度は、**マドラス・ボンベイ管区**などで実施された。ここで、**ザミンダーリー制**・ライヤットワリー制の違いを整理しておく。ザミンダーリー制は、小作人がザミンダール（地主）に納税し、地主は管区の総督に地税を納める代わりに総督から土地所有の承認を得る制度。ベンガル管区などで実施された。ライヤットワリー制は、植民地政府／管区の総督が直接耕作者から地税を徴税し、代わりに土地所有を承認する制度。マドラス・ボンベイ管区などで実施された。

◆整理 漢の武帝の対外政策

西：B.C. 139 年～ B.C. 126 年 **張騫**<sup>ちょうけん</sup>を大月氏に派遣。

北：B.C. 121 年 **匈奴**を破り、河西回廊に 4 郡を設置。

南：B.C. 111 年 **南越国**を征服し、9 郡を設置。

東：B.C. 108 年 **衛氏朝鮮**を征服し、4 郡を設置。

問3 3 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

出題分野はルネサンス。エラスムスと、「エラスムス像」を描いた画家に関する穴埋め問題。空欄イのホルバインは、やや難しい。

ア **愚神礼賛** (**愚神礼讃**) が入る。キーワードは、「エラスムス」の部分。**エラスムス**は、ネーデルラント出身の人文主義者として、ルネサンス期に活躍した。彼は、『愚神礼賛 (愚神礼讃)』を著し、カトリックの腐敗を風刺して宗教改革にも大きな影響を与えた。『**天路歷程**』は、イギリスの作家**バンヤン**の作品。バンヤンはピューリタン革命に参加し、王政復古後に投獄された経験を持つ。

イ **ホルバイン**が入る。キーワードは、「彼の肖像画『エラスムス像』…を描いたドイツの画家」「彼の紹介でイギリスに渡り、後に宮廷画家となった」の2カ所。**ホルバイン**はドイツ出身の画家で、イギリスに渡ったあとは、**ヘンリ8世**時代の**宮廷画家**となり、**ヘンリ8世・エラスムス・トマス=モア**らの肖像画を描いた。ちなみに、**ベラスケス**は、スペインの**バロック式**の**宮廷画家**。光線の表現に工夫が見られる肖像画・風景画が多く、代表作は「女官たち」や「プレダの降伏」。

## B

問4 4 正解は①

難易度 ★★☆☆☆☆

解説

出題分野はトルコ・イラン世界の展開。ティムールが本拠とした都市名と、地図上でのその位置を問う問題。「ティムールの本拠とした都市」とややこしく記載されているように見えるが、「帝国の都」を答えるのと事実上同じである。帝国の首都や都市は、地図でよく確認しておけば、白地図で出題された際に戸惑わない。

まず、都市名と地図上の位置が一致しているのは①と④。ティムールがティムール朝を建国するときに都としたのは**サマルカンド**だから、①の**サマルカンド**→aが正解とわかる。ティムール朝が現在のイラク・アフガニスタン・パキスタン辺りを支配していたと考えれば、正解するのはそう難しくない。ちなみに、**カラコルム**は、**オゴタイ=ハン** (**太宗**) が建設した**モンゴル帝国の首都**。フビライ=ハン (世祖) の治世下で**大都**に遷都した。

問5 5 正解は②

難易度 ★★☆☆☆☆

解説

遊牧民に関する問題。出題分野は①と②が草原の遊牧民とオアシスの定住民、③東アジア諸地域の自立化、④モンゴルの大帝国、である。遊牧民に関するものは、あまり深く取り上げられない一方で覚えるべき要項が多いので、よく確認しておきたい。

① 誤 **劉邦**を破って、漢を圧迫したのは**匈奴**。ぼくとつぜんう冒頓单于が率いる匈奴に白登山の戦いで漢は破れた。ちなみに

とっけつ

突厥が存在していたのは中国の魏晋南北朝時代～唐代にかけて。また、突厥は主に西への領土拡大を目指していたため、中国を圧迫することは少なかった。

- ② 正 北魏を建国したのは鮮卑<sup>せんび</sup>の拓跋珪<sup>たくぼつけい</sup>（道武帝）。439 年に太武帝が華北を統一した。
- ③ 誤 契丹（キタイ）では耶律阿保機<sup>やりつあほき</sup>の命令で契丹文字が作成された。ちなみに、キリル文字はスラヴ世界で使用される文字で、キュリロスの弟子が発明したとされている。
- ④ 誤 イル＝ハン国はフラグが建国した。モンケ＝ハンの命令で西アジアに遠征し、1258 年にバグダードを占領してアッバース朝を滅ぼしたフラグは、イラン地方を支配してイル＝ハン国を建てた。ちなみに、ガザン＝ハンはイル＝ハン国第 7 代のハンで、国内の中央集権化に努め、イスラーム教を国教とした人物。

問 6 6 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

ムガル帝国時代にインドで起こった出来事に関する問題。出題分野は、①インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化、②と③がインドの古典文明、④ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展、である。このような「〇〇時代に起こった出来事」に関する正誤問題では、(1)事実誤認の有無、(2)設問の提示している時代の出来事に関する記述か、の 2 点を検討していきたい。ちなみに、この問題では(1)事実誤認は見受けられない。誤った選択肢が、それぞれいつの時代の出来事かについても確認しておきたい。

- ① 誤 ガズナ朝が侵入を繰り返したのは、ムガル帝国建国以前。11 世紀にガズナ朝が、12 世紀にゴール朝がアフガニスタンから繰り返し侵入した。1206 年にはゴール朝の将軍アイバクが奴隷王朝を建国し、その後しばらくデリー＝スルタン朝の王朝が興亡を繰り返した。
- ② 誤 デカン地方で、サータヴァーハナ朝が栄えたのは、ムガル帝国建国以前。サータヴァーハナ朝は、B.C.100 年～ A.D.200 年頃に存在していた王朝で、インド北部ではクシャーナ朝が存在していた時期に近い。ドラヴィダ人が建国した国で、季節風交易によって繁栄し、『マヌ法典』の原型を形成した国でもある。
- ③ 誤 『マヌ法典』が編纂されたのは、ムガル帝国建国以前のグプタ朝時代。『マヌ法典』は、各ヴァルナの宗教的・社会的義務と生活規範を規定したもので、バラモンの優位、女性への差別などが強調されている。この法典がのちのインド社会に大きな影響を与える。
- ④ 正 シク教徒が反乱を起こしたのは、ムガル帝国のアウラングゼーブ時代。アウラングゼーブが 1679 年に異教徒へのジズヤを復活させたことに不満を持ったシク教徒は、反乱を起こした。

## C

問 7 7 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

ピョートル 1 世の事績に関する問題。出題分野は①が東ヨーロッパ世界の成立で、②、③、④が重商主義と啓蒙

専制主義，である。誤った選択肢が誰の事績であるかを確認しておきたい。

- ① 誤 **ギリシア正教に改宗したのは、キエフ公国のウラディミル 1 世**。彼は、ビザンツ皇帝の妹との結婚を機会に、ギリシア正教に改宗するとともに、ロシアのビザンツ化と農奴制を進めた。
- ② 誤 **ラクスマンを日本に派遣したのは、エカチェリーナ 2 世**。彼女は啓蒙専制君主であったこととしても知られている。1792 年にはラクスマンを日本に派遣することを決定した。
- ③ 誤 **ステンカ＝ラージンの反乱**が起こったのは、ピョートル 1 世が**即位する前**（1670 年、ピョートル 1 世の即位は 1689 年）。コサック出身のステンカ＝ラージンは、1670 年～1671 年の農民反乱を指導し、一時ヴォルガ川下流～カスピ海南岸まで勢力を拡大させたが、最終的には敗れ処刑された。
- ④ **正 北方戦争**（1700 年～1721 年）で、スウェーデンに**勝利したのは、ピョートル 1 世**。北方戦争とは、バルト海の覇権を巡る、宣戦布告したバルト海の強国スウェーデンとデンマーク・ポーランド・ロシアの戦いのこと。結果、スウェーデンは敗れ、ロシアがバルト海の覇権を握った。

問 8 8 正解は②

難易度 ★★★☆☆

**解説**

出題分野は、①中国の古典文明、②南北アメリカ文明、③ 17～18 世紀のヨーロッパ文化、④トルコ・イラン世界の展開，である。宮殿や都市に関する問題。②のような古代アメリカ文明の都市に関する問題は混同しやすいため、第 4 問の問 6 にある整理「古代アメリカ文明」も参照してもらいたい。

- ① 誤 **鎬京**は、**西周**の都。周の武王が殷に打ち勝ち、殷を滅ぼしたのち、**西周**を建国した。神権政治を採用していた殷とは違い、西周は封建制度を採った。B.C.770 年に異民族の**犬戎**により鎬京が陥落すると、**洛邑**に都が変わり、東周の時代が始まった。ちなみに、**光武帝**は劉秀のことで、後漢の初代皇帝。後漢の都は、洛陽。
- ② **正 マチュ＝ピチュ**は、標高約 2500 m の山岳地帯に建てられた**インカ帝国**の都市。**インカ帝国**は、アンデス高地（**南アメリカ**）に築かれた帝国で、首都は**クスコ**。文字は使用せず、**キープ**（**結縄**）で数を表現していたことで有名。
- ③ 誤 **ヴェルサイユ宮殿**は、**バロック様式**の代表的建築。ヴェルサイユ宮殿は、**ルイ 14 世**の命令で建てられ、1789 年までは王宮として使用された。ルイ 14 世は、豪華で広大な宮殿を建てることによって、国内外に自らの権力を誇示しようとした。ちなみに、**ロココ様式**の宮殿は、フリードリヒ 2 世の命令でポツダムに造られた**サンスーシ宮殿**が代表的。他にもマリア＝テレジアの時に完成した、ウィーンのシェーンブルン宮殿は、外観がバロックで、内装はロココというハイブリッドな様式。

※**バロック様式／美術** 16 世紀後半～18 世紀初めまで王権を背景とした**豪壮で華麗**な様式／美術（ルネサンスの調和と安定に対する反動）。例：**ヴェルサイユ宮殿**（フランス・**ルイ 14 世**），**シェーンブルン宮殿**（外観）

※**ロココ様式／美術** 18 世紀後半に、フランスを中心に広まった**繊細で優美**な様式／美術。例：**サンスーシ宮殿**（プロイセン・**フリードリヒ 2 世**），**シェーンブルン宮殿**（内装）

- ④ 誤 「世界の半分」と讃えられたのは、**イスファハーン**の繁栄。**イスファハーン**は、アッバース 1 世が 1598 年にタブリーズから遷都した**サファヴィー朝の首都**で、16 世紀末から 18 世紀にかけて繁栄した。美しい建築群が建てられ、多くの人を訪れ、オランダやイギリスの東インド会社の商館も建設された。ちなみに、**バビロン**は、古代オリエント世界においてユーフラテス川中流域に位置する大都市で、バビロン第 1 王朝や新バビロニア王国の都として繁栄した。

問 9 9 正解は④

難易度 ★★★☆☆

**解説**

出題分野は **a** が 19 世紀欧米の文化、**b** はルネサンス、**c** は 17～18 世紀のヨーロッパ文化と社会である。ヨーロッパ文化に関する順序並び替え問題。文化史はただでさえ覚える要素が多いので、人物や出来事を時代とリンクさせて覚えておきたい。

- a** **ランケ**が**歴史学**の基礎を作ったのは、**19 世紀**。1795 年生まれのドイツの歴史家で、厳密な史料批判の方法を確立したランケは、近代歴史学の父とも称された。彼の代表作の一つに『**世界史**』がある。
- b** **マキアヴェリ**が、『**君主論**』を著したのは、**イタリア＝ルネサンス期**。マキアヴェリは、宗教・道徳から切り離した、現実主義的な政治を行う必要性を主張し、**近代政治学の先駆者**とされる。『君主論』は **1532 年**に刊行された。
- c** **喜劇作家のモリエール**が活躍したのは、**17 世紀**。フランス古典主義に分類される作家で、代表作には『人間嫌い』や『タルチュフ』がある。彼の作品がルイ 14 世の宮廷で上演されたこともある。

◆整理 17～18 世紀のヨーロッパ文学

**古典主義** (仏)

- ・**コルネイユ**：著作『ル＝シッド』、フランス古典**悲劇**を創始。
- ・**ラシーヌ**：著作『アンドロマク』『ペレニス』、フランス古典**悲劇**を大成。
- ・**モリエール**：著作『人間嫌い』『タルチュフ』、フランス古典**喜劇**作家。

**ピューリタン文学** (英)

- ・**ミルトン**：著作『**失樂園**』、ピューリタン革命を支持。
- ・**バンヤン**：著作『**天路歷程**』、ピューリタン革命に参加。

**風刺文学** (英)

- ・**デフォー**：著作『**ロビンソン＝クルーソー**』、産業革命前後の中産階級の立場を代弁。
- ・**スウィフト**：著作『**ガリヴァー旅行記**』、イギリス社会風刺・徹底批判、アイルランド生まれ。

(制作：重森理瑛，谷口昂輝)

# 2016年度 センター試験 本試験 世界史 B

## 第2問 ユネスコに登録された世界遺産

出題範囲	紀元前2世紀～20世紀後半の世界遺産について
難易度	★★★☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	2016年度の第2問は、世界遺産をテーマに4択問題・正誤問題・年表問題などが幅広く出題されている。問3～問5，問9に見られるような年代を問う問題が多い。語呂合わせ集などを活用して基礎的な年号は覚えておこう。問3のグラフ問題は見慣れないが，単なる年号問題である。新しい形式にひるまずに何を問う問題なのかということに着目しよう。問4は政体変化の重要性を喚起させる問題。イギリスに限らず，他国の政体変化も学習しておこう。また，問7のような儒教に関連する内容も頻繁に出題されるので，おさえておこう。

### A

問1 **10** 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

#### 解説

世界遺産に関する問題。出題分野は，①中国の古典文明，②東南アジアの諸文明，③イスラーム世界の発展，④東アジア世界の動向，など。④に関しては，紫禁城が実際どの時期に造られたかは知らなくても，「北京」というヒントがあるため，北京が繁栄した時期と考えると，わかりやすくなる。

- ① 正 秦の始皇帝の陵墓の付近には，<sup>へいばよう</sup>兵馬俑が多く置かれ，1987年に世界文化遺産に登録された。
- ② 誤 ボロブドゥールは，大乘仏教寺院として造られた。ボロブドゥールは，ジャワ島中部に造られ，シャイレンドラ朝時代のものとされている。また，装飾の仏像群には，グプタ様式が強く影響していると考えられる。
- ③ 誤 アルハンブラ宮殿は，イスラーム文化の影響を強く受けた建築物。イスラーム世界では，偶像崇拜が禁止されているため，アラベスク（幾何学文様）が発達し，アルハンブラ宮殿にはそれが多く見られる。ナスル朝時代のグラナダに建設された。ちなみに，ビザンツ様式で有名な建築物は，イスタンブルのハギア＝ソフィア聖堂。現在はイスラーム教のモスクに転用されている。
- ④ 誤 北京の紫禁城は，明・清代の宮殿であった。永楽帝の時代に金陵（南京）から都を北京に移し，壮大な城郭や宮殿が造営された。紫禁城は，永楽帝が築造し，清代に大改築された。ちなみに，宋代の都は，北宋が<sup>かいほう</sup>開封，南宋が<sup>りんあん</sup>臨安（杭州）。

問 2 11 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

歴史上の同業者組合やその集会所に関する出題である。出題分野は①フランス革命とナポレオン、②西ヨーロッパ中世世界の変容、③清代の中国と隣接諸地域、④東アジア世界の動向、など。解答するときは、誤っているものを選ぶことに留意する。この分野はあまり深く取り上げられることはないものの、社会の仕組みを知るうえで覚えておくべき内容である。しっかりと確認しておこう。

- ① 正 フランス革命中の 1790 年に、商業活動の自由を阻むものとしてギルドは廃止された。
- ② 誤 同職ギルドは、親方のみが加入していた。親方のみが同職ギルドの正規組合員として認められ、市政にも参加した。反対に、職人や徒弟は、親方の絶対的な権威の下で働き、下層民として扱われた。ここで、職人と徒弟の説明をしておく。職人は有給の技術者で、ときおり反乱を起こしていた。徒弟は住み込みの無給の見習いで、2～7 年後には職人になった。
- ③ 正 公行こうこうとは、清代に広州での外国貿易を独占していた特許商人の組合のこと。アヘン戦争の講和条約である南京条約では、公行の廃止を求められ、1842 年に廃止となった。
- ④ 正 会館・公所は、商工関係の同業・同郷者などが親睦・互助のために造った建物のこと。宋代頃から造られるようになり、明代以後には整備され、発展した。

問 3 12 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、重商主義と啓蒙専制主義。1630 年から 1799 年のヨーロッパ 3 カ国において、アジアに航海するために艦装された船舶の数に関する資料問題。一見簡単そうに見えるが、実は設問で世界史の知識を必要とする。「七年戦争終結」は重要年号だが、「フランスの東インド会社の再建」の大まかな時期の知識が必要とされるため、やや難しい。

- a 誤 七年戦争の終結は 1763 年。オランダの船舶数のピークは、1720 年 - 1739 年となっているため、七年戦争の終結よりも前である。
- b 正 フランスの東インド会社が再建されたのは、ルイ 14 世時代（1664 年、設立自体は 1604 年）。フランスの船舶数がイギリスの半分以上になるのは、1730 年 - 1739 年以降であるから、フランスの東インド会社が再建される以前の時期は、フランスの船舶数がイギリスの半分以下である時期と重なる。
- ※ 1661 年（語呂合わせ：ヒーロー向いてる康熙帝こうきてい）は、ルイ 14 世が親政を開始し、康熙帝が即位した年。意外と役立つので覚えておこう。

## B

問 4 13 正解は②

難易度 ★★★☆☆

## 解説

出題分野は重商主義と啓蒙専制主義。イギリスで立憲王政が確立した時期に関する年表問題。「イギリスが立憲王政を確立した」という記述でわかりにくい場合は、「権利の章典が発布された」という出来事に置き換えるとよい。どんな出来事がきっかけとなって、政治体制が変わったのかを確認しておくに役立つ。

イギリスで立憲王政が確立したのは、名誉革命ののち、ウィリアム 3 世とメアリ 2 世の共同統治下、1689 年に「権利の章典」が発布されたとき。よって、②が正解。「権利の宣言」を法文化した「権利の章典」は、議会主権を明確にし、イギリス立憲政治の原点とも言える。

問 5 14 正解は①

難易度 ★★★☆☆

## 解説

出題分野は①世界恐慌とファシズム諸国の侵略、②ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生、③西ヨーロッパ中世世界の変容、④帝国主義と列強の展開、である。第一次大戦後に起こった出来事を中心とした出題で、選択肢で挙げられている出来事の年号が具体的にわからなくても、その契機・結果となった出来事の時期がわかれば、正解にたどり着ける。

- ① 正 フーヴァー＝モラトリアムが宣言されたのは、1931 年。世界恐慌が波及したために財政危機となったドイツの救済を目的として、政府間の戦債・賠償支払い 1 年停止の猶予を与えたもの。だが、決定が遅かったために効果はなかった。
- ② 誤 イギリスで、第 3 回選挙法改正が行われたのは、19 世紀後半（1884 年）。第 2 次グラッドストーン内閣のときに選挙法が改正され、農業・鉱山労働者にも参政権が与えられた。
- ③ 誤 スイスの独立が認められたのは、1648 年。オランダとともに、ウェストファリア条約で国際的に独立が承認された。13 世紀以降、ハプスブルク家の支配に対して独立抗争を開始し、1316 年には自治権が承認された。15 世紀末には 13 州の独立を獲得し、1648 年には国際的にスイスの独立が認められた。
- ④ 誤。ブーランジェ事件が起こったのは、19 世紀後半（1887 年 - 1889 年）。プロイセン＝フランス戦争（普仏戦争）でのフランスの敗北を受けて、対ドイツ強硬派であった元陸相ブーランジェが、国民の対ドイツ復讐感情を利用して軍部独裁のクーデタを企てたが、失敗に終わった。

## ◆整理 イギリスの選挙法改正

第 1 回 (1832 年) : 腐敗選挙区の廃止が目的。有権者は**都市のブルジョワ**。

第 2 回 (1867 年) : 有権者が**都市の労働者**に拡大 (ダービー内閣)。

第 3 回 (1884 年) : 有権者が**農業・鉱山労働者**に拡大 (グラッドストーン内閣)。

第 4 回 (1918 年) : 男子 (21 歳以上)・女子 (30 歳以上) に**普通選挙権が与えられる** (ロイド＝ジョージ内閣)。

第 5 回 (1928 年) : 男女とも **21 歳以上**の普通選挙権が与えられる。

第 6 回 (1969 年) : 男女とも **18 歳以上**の普通選挙権が与えられる。

問 6 15 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

イギリスとフランスの牢獄や投獄に関する正誤問題。出題分野は **a** 重商主義と啓蒙専制主義と、**b** フランス革命とナポレオン、である。この問題は契機と結果の組み合わせに齟齬がないかを検討する必要がある。

- a** 誤 イギリスでは、**人身保護法** (1679 年) によって、**法律に準拠しない逮捕・裁判は禁止**された。一方、**審査法** (1673 年) は、チャールズ 2 世のカトリック容認に対抗して、公職就任者を国教徒に限定したもので、1828 年に廃止された。
- b** 誤 フランスでは、**ネッケルの財務長官解任**をきっかけに、**バステューユ牢獄 (バステューユ要塞)** への襲撃が起こった。一方、**ヴァレンヌ逃亡事件** (1791 年 6 月) は、ルイ 16 世一家がオーストリアへの逃亡を図った事件。この事件をきっかけに、国民の国王への信頼はより薄れ、共和派が急速に台頭することになった。

## C

問 7 16 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

儒教の盛行に関する問題。出題分野は①東アジア文化圏の形成、②と③と④は東アジア世界の動向、である。解答では誤っているものを選ぶことに留意する。中国や朝鮮の文化史は混同することが多いので、注意する必要がある。選択肢の①～③に関しては、時代と当時の皇帝も確認しておきたい。

- ① 正 『**五経正義**』は、**唐の太宗**の命令によって**孔穎達**が編纂した。これによって、五経の解釈が統一されて、しかも科挙のテキストとなったため、儒教の固定化・形式化がより進んだ。
- ② 正 **六論**は、**明の洪武帝**によって定められた。これは、**民衆教化**のために利用され、**里老人**を通じて六論の

徹底化が図られた。六諭は、明治時代に日本で作成された「教育勅語」にも影響を与えた。

- ③ 正 朝鮮（李朝，朝鮮王朝）では、**李成桂（太祖）**が**朱子学を官学とした**。また、明に倣った官僚制度も導入し、科挙を広く実施した。
- ④ 誤 大越国は、1407年から**明朝**の支配下にあったが、1428年に**黎利**が独立し、**黎朝**が成立した。**明による支配を受けていたため、朱子学が発達した**。黎朝は1789年に**西山党**に滅ぼされる。

問8 17 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

戦争や外来文化の影響を受けた文化遺産に関する問題。出題分野は①東アジアの激動，②東アジア世界の動向，③北方民族の活動と中国の分裂，④インドの古典文明，である。誤っている選択肢は、どこをどのように直せば正解になるかを自分で書いて確認してみると、知識が定着しているか確認できる。

- ① 正 **アロー戦争**の時に、北京を占領した英仏軍によって**円明園**が破壊・略奪された。円明園は、清の時代に**カステリオーネ**らが設計に参加し、バロック式と中国様式を融合した宮殿や庭園造った。
- ② 誤 明代の長城の改修は、**オイラトの侵入をきっかけに積極化され**、現存の長城が完成された。もともと、万里の長城は、戦国時代の燕・趙などが造営を開始し、始皇帝が匈奴の侵入を防ぐために修築し、連結したものだ。ちなみに、**柔然**は、**5世紀から6世紀**にモンゴル高原で活躍した騎馬遊牧民。5世紀初めにはモンゴル高原・タリム盆地を制圧し、北魏と対立した。
- ③ 誤 **竜門**では、**仏教の石窟寺院**が造営された。竜門石窟は、北魏の**孝文帝**が洛陽に遷都したあとに、造営を開始したもので、その作業は唐の中期まで続いた。竜門の石仏には中国式の仏教美術が強く表れている。他に有名な石窟寺院は、**敦煌**石窟寺院と**雲崗**石窟寺院がある。ちなみに、**ジャイナ教**はインドで生まれ、禁欲・苦行を説き、ヴァルナ制を否定した宗教。極端な不殺主義を採用し、厳しい戒律を重視した。
- ④ 誤 **ガンダーラ**地方では、**ヘレニズム文化**の影響を受けた仏像が作られた。1世紀に発達したガンダーラ美術は、バクトリア王国時代に伝わってきたヘレニズム彫刻の技術などと融合した。また、この様式は西域から中国、そして日本にも伝わったとされている。ちなみに、**イスラーム教**が成立したのは**622年**なので、ガンダーラ美術の隆盛よりはるかに先であり、イスラーム文化がガンダーラ美術に影響を及ぼすことはできない。

問9 18 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、社会主義世界の変容とグローバル化の進展で、改革・解放政策の下で人民公社の解体が始まった時期の年表問題。改革・開放政策を打ち立てたのは誰で、彼らが勢力を握ったのはいつの時代か、の順に

考えていけば、正解にたどり着ける。

**改革・開放政策**の下で**人民公社の解体**が始まったのは、**1978**年。1976年の周恩来・毛沢東の死を受けて、1977年に権力を持つようになった**鄧小平**が、改革・開放政策を打ち立てた。**1985**年に人民公社の解体が終了し、農村に各農家の生産責任制が実施された。ちなみに、鄧小平は「四つの現代化」政策なども実行し、中国に市場経済を導入することを図った。正解は **c** にあたる**③**。

(制作：重森理瑛，的場光紀)

# 2016年度 センター試験 本試験 世界史 B

## 第3問 世界史上の戦争とその影響

出題範囲	紀元前5世紀～20世紀末までの世界史上の戦争とその影響
難易度	★★★☆☆
所要時間	10分
傾向と対策	2016年度の第3問は、戦争をテーマとした問題。戦争は背景、関係国、経緯、結果までをセットで覚えよう。問3のような民族絡みの問題は混同しやすい。どの民族が何を行ったかは、しっかりおさえておこう。問5の範囲の近代中国に関する内容は複雑なので、注意する。清・中華民国・中華人民共和国についての出題は、どの時代の政策かを中心に年表を見ながら整理しておこう。外交政策の問題は相手国の特徴・事情も併せて覚えよう。

### A

問1 **19** 正解は②

難易度 ★★★☆☆

#### 解説

出題分野はギリシア世界について。バルカン半島南部について述べた文に関する正誤問題。この問題は、(1)事実誤認の有無、(2)バルカン半島南部で起こった出来事に関する記述か、の2点を検討していきたい。古代ギリシアにおける戦争は、混同しやすい事項が多いため、要確認。

- a 正 ペルシア戦争の**サラミスの海戦**で、**テミストクレス**率いるアテネ海軍は、**アケメネス朝を破った**。また、この戦いでは、無産市民も三段櫂船の漕ぎ手として活躍した。
- b 誤 **フィリッポス2世**は、**カイロネイアの戦い**で、**アテネ・テーベ連合軍**を破った。

#### ◆整理 ペルシア戦争 アテネとアケメネス朝の争い

契機と発端：ダレイオス1世に対する**イオニア植民市の反乱**をアテネが援助した。

- ・第1回 (B.C.492年)：**ダレイオス1世**が開戦。
- ・第2回 (B.C.490年)：**マラトンの戦い**=アテネ軍の勝利。
- ・第3回 (B.C.480年)：**テルモピレーの戦い**=スパルタ軍全滅、**サラミスの海戦**：**テミストクレス**率いるアテネ軍の勝利 (無産市民が漕ぎ手として活躍)。  
(B.C.479年)：**プラタイアの戦い**=ギリシア側の完勝。  
(B.C.478年)：**デロス同盟結成**=ペルシアの再攻に備えたアテネ中心の軍事同盟。

## ◆整理 フィリッポス 2 世とアレクサンドロス大王

B.C.338 年：カイトネアの戦い＝フィリッポス 2 世×アテネ・テーベ軍。勝者はフィリッポス 2 世。

B.C.337 年：コリントス同盟＝スパルタ以外の全ギリシア都市の同盟。

B.C.334 年：東方遠征開始（アレクサンドロス大王の遠征）。

B.C.333 年：イツソスの戦い＝アレクサンドロス大王×アケメネス朝。勝者はアレクサンドロス大王。

B.C.331 年：アルベラ（ガウガメラ）の戦い＝アレクサンドロス大王 ×アケメネス朝。勝者はアレクサンドロス大王。

B.C.330 年：アケメネス朝滅亡。

B.C.301 年：イブソスの戦い（ディアドコイ戦争）。アレクサンドロス帝国の分裂が決定的に。

問 2 20 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

世界史上の国家が、征服地に対して実施した政策に関する問題。出題分野は、①東アジア文化圏の形成、②ローマ世界、③イスラーム帝国の成立、④清代の中国と隣接諸地域、である。解答は、誤っているものを選ぶことに留意する。①のように、中国では歴史上、征服地政策が非常に多いので、通史で確認しておこう。また、イタリア半島における分割統治も重要な項目であるため、整理「共和制ローマによる イタリア半島の分割統治」を参照してほしい。

- ① 正 唐は、周辺諸民族を統治するために征服地に都護府を設置した。その土地の部族長に統治を任せると、都護府には中央から官吏・軍を派遣して、部族長を監督した。このような間接統治の方法を**覇政**と呼ぶ。
- ② 正 共和政ローマは、第 1 回ポエニ戦争で、シチリア島を属州とした。シチリア島は、地中海交易の要地であり、さらには当時最大の穀物生産地でもあったため、シチリア島の支配を巡る争いはこの時代多かった。
- ③ 誤 イスラーム帝国は、正統カリフ時代に征服地に**軍営都市**（ミスル）を設けた。アラブ人ムスリムは征服地に移住し、ミスルと呼ばれる都市を建設した。ミスルは経済上、軍事上の拠点としての役割を果たした。ミスルの代表的な都市は、イランのクーファ・バスラ、エジプトのフスタート、チュニジアのカイラワーンなど。
- ④ 正 清は、**モンゴル**のチャハル部（1635 年、太宗）とハルハ部（1697 年、康熙帝）を**藩部**として平定した。これらの藩部を統轄する機関として**理藩院**が設けられた。

## ◆整理 共和政ローマによる イタリア半島の分割統治

	半島	市民権	
植民市	内	あり	防衛上の要地に建設。
自治市	内	あり	投票などの公法の権利は無し。
同盟市	内	なし	軍事力提供の義務あり，同盟市同士の条約は禁止。
属州	外	なし	高官や総督に割り当てられた職務領域という位置づけ。

## 問3 21 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

民族の移動・定住・興亡に関する問題。出題分野は①と③が東ヨーロッパ世界の成立，②と④がトルコ・イラン世界の展開，である。ゲルマン人の大移動期あたりの民族が混同されやすいので，再度復習することを勧める。また，誤っている選択肢について，主語や述語がどのようになっていれば正解になるのかを，自分で書いて確認しておく役立つ。

- ① 正 マジャール人は，現在のハンガリー人の祖と呼ばれ，彼らは9世紀末にパンノニアに定住し，ハンガリー王国を建国した。955年のオットー1世とのレヒフェルトの戦いで敗北したあとに移住し，建国した。11世紀にはカトリックを採用し，王朝断絶後には選挙王政を実施した。
- ② 誤 ウィーンを包囲したのは，オスマン帝国。スレイマン1世は，モハーチの戦いに勝利し，ハンガリーを領有したのちに，ハンガリーの王権を巡って神聖ローマ帝国と対立し，1529年に第1次ウィーン包囲でカール5世を圧迫した。1683年に行われた第2次ウィーン包囲は失敗に終わり，オスマン帝国は次第に衰退していった。
- ③ 誤 ブルガリア王国を建てたのは，ブルガール人。7世紀末の建国後にはスラヴ化が進み，9世紀にはギリシア正教を受け入れたことで，王はツァーリの称号を獲得し，第1次ブルガリア帝国を築いた。1018年にはビザンツ帝国に支配されたために滅亡したが，1187年には第2次ブルガリア帝国が再興した。13世紀前半に全盛を迎えるも，14世紀末には，オスマン帝国に敗北し，支配下に置かれた。ちなみにフン人は，ゲルマン民族の大移動をもたらしたとされるアジア系騎馬遊牧民。また，匈奴と同族だという説もある。5世紀に西ヨーロッパを攻略し，パンノニアに大帝国を築いたが，同世紀末には内紛と流行病で崩壊した。
- ④ 誤 オスマン帝国は，ニコポリスの戦いで勝利した。ニコポリスの戦い（1396年）は，ハンガリー王ジギスムントとオスマン帝国バヤジット1世との戦いで，バヤジット1世はハンガリーを撃破してブルガリア一帯を制覇し，スルタンの称号を名乗った。しかし，1402年のアンカラの戦いでティムールに敗れて捕虜となり，帝国は一時崩壊した。

## B

問 4 22 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

出題分野は、19 世紀から 20 世紀の中国、東アジアの条約と領土問題について。19 世紀にイギリスが清から割譲させた領土の名前と、地図上での位置に関する問題。香港島と台湾の位置は、必ず確認しておこう。また、香港島と台湾がそれぞれどのような歴史をたどっているのかをまとめておくとなんとなく役に立つ。

まず、領土の名前と地図上での位置が一致しているのは、①と④。また、19 世紀にイギリスが清から割譲させた領土は**香港島**であるため、①の**香港島**—a が正解とわかる。「19 世紀にイギリスが清に割譲させた」のは、1842 年の**南京条約**。ちなみに、**台湾**は、1624 年にオランダが占領したが、1661 年に鄭成功がオランダ勢力を破り、清朝への抵抗の根拠地とした。その後、康熙帝が鄭氏を破り、台湾は清の領土となる。1895 年には下関条約で、日本への台湾の割譲が決定された。

## ◆整理 清と諸外国との条約

**南京条約 (1842 年)**：対イギリス (アヘン戦争)

開港地：広州・上海・寧波・廈門・福州。

条項：公行の廃止と自由貿易の実施、香港島の割譲、賠償金の支払い。

**虎門寨追加条約 (1843 年)**：対イギリス

条項：領事裁判権、最恵国待遇、関税自主権の喪失。

※**望厦条約** (対米)・**黄埔条約** (対仏) で南京条約と同じ内容を承認。

**北京条約 (1860 年)**：対英・仏・(露) (アロー戦争)

開港地：天津を追加。

条項：天津条約の条項を再承認、九竜半島南部をイギリスに割譲、ロシアに沿海州を割譲。

問 5 23 正解は②

難易度 ★★★★★

## 解説

近代以降の国民政府の外交政策に関する問題。出題分野は、①と②はアジア・アフリカ民族主義の進展、③アジア諸国の改革と民族運動、④東西対立の始まりとアジア諸地域の自立、である。誤っている選択肢が、どの政府によって実施されたものなのかを確認しておきたい。

① 誤 **二十一カ条要求**を受諾 (1915 年) したのは、**袁世凱**政府。二十一カ条要求は、中国東北地方・内モン

ゴル・華北の日本への事実上の隷属を要求したものである。その結果、反日運動が高まった。

- ② 正 国民政府は関税自主権の回復を目指し、1928年-1930年（**広州国民政府**）にかけて南京条約の関税自主権に関する条項の撤廃を勝ち獲ることができた。
- ③ 誤 北京議定書に調印（1901年）をしたのは**清朝**。国民政府が結成されるのは、1919年であるため、清朝が存在している時期には国民党は存在していない。
- ④ 誤 中ソ友好同盟相互援助条約を締結（1950年）したのは**中国共産党**。ここでの「中」は中華人民共和国のことであり、この条約はアメリカと日本を敵国と考へて、モスクワで結ばれた軍事同盟である。1980年には解消している。

問6 24 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

第二次世界大戦後に形成された国際社会の新たな枠組みに関する問題。出題分野は、①冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興、②アジア・アフリカ民族主義の進展、③ヴェルサイユ体制下の欧米諸国、④ウィーン体制、である。選択肢の組織や条約がどういう内容のものかを考えた上で、選択肢を第二次世界大戦前・中・後に分別したい。第二次世界大戦後に形成された組織も併せて確認しておきたい。

- ① 正 太平洋安全保障条約（ANZUS）が形成されたのは、**第二次世界大戦後の冷戦期**（1951年）。加盟国は、**オーストラリア・ニュージーランド・アメリカ**の3か国で、反共軍事同盟として機能していたが、1986年のニュージーランドの脱退を機に解消した。
- ② 誤 コミンテルン（**第3インターナショナル**）が結成されたのは、**第二次世界大戦前**（1919年）。コミンテルンは、世界の共産党などの左翼勢力が、ロシア共産党の指導を受けてモスクワで結成した組織。コミンフォルム（1947年結成）と混同しないように。
- ③ 誤 **四か国条約**が締結されたのは、**第二次世界大戦前**（1921年）。第一次世界大戦が終結したあとに築かれた**ワシントン体制**を支える条約の一つとして、米・英・仏・日の4か国間で結ばれた。本条約は太平洋の現状維持と日英同盟の解消を求めたものである。
- ④ 誤 **パクス=ブリタニカ**（**パックス=ブリタニカ**）と呼ばれる状況が実現したのは、**第二次世界大戦前**（**18世紀-19世紀**）。当時、「世界の工場」と称されたイギリスは、市場と原料を求めて世界各地に植民地を拡大していた。20世紀はアメリカが覇権を握り、経済的・政治的主導権を握った。この時代は、**パクス=ブリタニカ**をもじって**パクス=アメリカーナ**と呼ばれた。

## C

問 7 25 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、ヴェルサイユ体制下の欧米諸国とアジア・アフリカ民族主義の進展で、第一次世界大戦中の秘密外交に関する文章における空欄補充問題。キーワードがおさえられていれば、難しくはない。イギリスの秘密外交については、条約名とその内容をミックスしている問題が多くあるため、確認しておこう。

ア **フサイン=マクマホン協定**（**フセイン=マクマホン協定**）が入る。キーワードは、「イギリスは…アラブ人に独立を約束した」の部分。対オスマン帝国反乱を条件に、**イギリスがアラブ人に独立を約束したのは、フサイン=マクマホン協定**（**フセイン=マクマホン協定**）である。この協定の内容は戦後、イギリスが無視したため、アラブの怒りを呼んだ。

イ **十四か条の平和原則**が入る。キーワードは、「アメリカ大統領ウィルソン」の部分。アメリカ大統領**ウィルソン**が提唱したのは、**十四か条の平和原則**。この原則では、世界平和の維持を従来の方法とはまったく異なる「集団安全保障」の理念で実現しようと試みた。

※**サイクス=ピコ協定**（1916年）：**英仏露でオスマン帝国領分割の境界線**を定めた秘密協定。中東地域は英仏で分割することにし、パレスチナは国際管理下に置くとした。これもイギリスの三枚舌外交のひとつ。また、イギリスの三枚舌外交の残る一つに**バルフォア宣言**（1917年）がある。この宣言により、イギリスは、第一次世界大戦の財政援助を条件に、**ユダヤ人のパレスチナでの国家建設**を支持するとした。

※**平和十原則**（1955年）：**アジア=アフリカ会議**（**バンドン会議**）で確認された原則で、1954年に打ち出された平和5原則を基礎としている。

問 8 26 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

19世紀から20世紀の科学技術と文化に関する問題。出題分野は、①と③が現代文明、②と④が19世紀欧米の文化、である。このような近代～現代における科学史の問題は度々出題されるので、基本知識はしっかり覚えておこう。

① 誤 **飛行機を発明**し、初飛行に成功したのは、**ライト兄弟**。ちなみに、**フォード**は、アメリカの「自動車王」で、**自動車の大量生産方式**を採用して、自動車の普及を可能にした人である。

② 誤 **ダイナマイト**を発明したのは、**ノーベル**。スウェーデンの化学技術者であった**ノーベル**は、ダイナマイトの発明によって巨万の富を得て、彼の死後1901年にノーベル賞が創設された。ちなみに、**ファラデー**は、イギリスの化学・物理学者で、**電磁誘導の法則**や**電気分解の法則**を発見し、**電磁気学**の発展に大きく貢献した人物である。

③ 正 **アインシュタイン**は、**相対性理論**を発表し、ニュートン以来の自然観を大きく覆した。彼は、第二次世

界大戦後、平和運動にも身を投じ、核兵器廃絶を求める**ラッセル=アインシュタイン宣言**を提唱した。

- ④ 誤 **ガソリンエンジン（内燃機関）を発明したのは、ダイムラー**。彼は自身の発明を基に、2輪・4輪ガソリン自動車を制作し、1890年にはダイムラー自動車会社（のちベンツ社と合併）を設立した。ちなみに、**ヘルムホルツ**はドイツの生理学者で、マイヤーと協力して1847年に**エネルギー保存の法則**を発見し、内燃機関の発達に大きく貢献した。

問9 27 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

**解説**

出題分野は、**a** 地域紛争の激化と深刻化する貧困、**b** 世界恐慌とファシズム諸国の侵略、**c** 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り、である。空爆が重要な戦略として用いられた戦争に関する順序並び替え問題。この問題は、第二次世界大戦前・冷戦中・冷戦後の三つに区分すると、正解にたどり着ける。**b → c → a**の順になる④が正解。

- a** **北大西洋条約機構（NATO）軍が、セルビアを爆撃したのは、冷戦後のコソヴォ紛争時（1999年）**。コソヴォ紛争は、セルビア内のコソヴォ地区で圧倒的多数であるアルバニア系住民の独立運動に対し、セルビアが抑圧して生じたもの。アメリカは、セルビア側の残虐行為を理由に NATO 軍の中心となり、セルビア空爆を実施した。
- b** **ドイツがゲルニカを爆撃したのは、第二次世界大戦前のスペイン内戦中（1937年）**。この時の様子を描いた絵画がピカソの代表作「ゲルニカ」である。
- ※**スペイン内戦** スペインで発生したアサーニャ大統領率いる人民戦線政府とフランコ將軍率いる反乱軍による内戦。人民戦線政府をソ連が支持したほか、国際義勇軍が参戦した（オーウェル、ヘミングウェイなど）。反乱軍はドイツ、イタリアが支援した（両国はベルリン=ローマ枢軸（1936年）で協力関係）。イギリス・フランスは不干渉の姿勢を取った。
- c** **イスラエルが、シナイ半島を占領したのは、冷戦中の第3次中東戦争（1967年）後**。第3次中東戦争終結後、イスラエルはシナイ半島以外にも、**ガザ地区・ヨルダン川西岸・ゴラン高原**も獲得した。

## ◆整理 中東戦争

**第 1 次中東戦争（パレスチナ戦争，1948 年）**

関係国：イスラエル×アラブ諸国

契機：イスラエル国の建国宣言（1948 年）。

結果：イスラエルの勝利。パレスチナ分割案以上の土地がイスラエル国の領土に。

**第 2 次中東戦争（スエズ戦争，1956 年）**

関係国：エジプト×イスラエル+英・仏

契機：エジプトのスエズ運河国有化宣言（1956 年，by ナセル）。

結果：エジプトの勝利。国際世論を受け，イスラエル・英・仏は撤兵した。

**第 3 次中東戦争（6 日間戦争，1967 年）**

関係国：イスラエル×アラブ諸国

契機：イスラエルが，エジプト・シリア・ヨルダンを先制攻撃。

結果：イスラエルの勝利。シナイ半島・ゴラン高原・ヨルダン川西岸・ガザ地区を占領した結果，パレスチナ難民が発生。

**第 4 次中東戦争（1973 年）**

関係国：イスラエル×アラブ諸国

契機：エジプト・シリアが，イスラエルに先制攻撃。

結果：イスラエルの勝利。OAPEC が石油戦略を発動した結果，オイル・ショックが起こる。

（制作：重森理瑛，井小路瑞木）

# 2016年度 センター試験 本試験 世界史 B

## 第4問 世界史上の宗教と政治

出題範囲	紀元前13世紀～20世紀の宗教史と政治史
難易度	★★★☆☆
所要時間	10分
傾向と対策	2016年度の第4問は、宗教と政治をテーマにした出題。出題・形式ともに標準レベル。Aではすべて正しい選択肢を解答するよう求められているが、問題の選択肢の間違っているところに×をつけて自分で訂正するよう心がければ、他の似たような問題でも間違えなくなる。問5に見られるような、キリスト教の歴史についての問題は頻出である。特に混乱しやすいキリスト教の成立～発展・公会議・宗教改革の三つを中心に復習しよう。

### A

問1 **28** 正解は④

難易度 ★★★☆☆

#### 解説

イスラーム世界の君主に関する問題。出題分野は、①と④がイスラーム世界の形成、②がトルコ・イラン世界の展開、③がイスラーム世界の発展である。イスラーム世界における君主の呼称は多いため、それぞれがどういう立場の人物を指しているのか、どの地域で使用されていた呼称なのかといったことを確認しておくといよい。

- ① 誤 正統カリフと呼ばれる君主が現れたのは、**正統カリフ時代**。カリフは、もともと預言者ムハンマドの後継者とされていたが、この時代に**選挙制**となり、宗教的・政治的指導者となった。一方で、アッバース朝のカリフは「神の代理」とされていた。また、アッバース朝のカリフは、**世襲制**の政治的支配者であると同時に、宗教的にも権威を持っており、政教一致の状態であった。
- ② 誤 **シャー**は、アケメネス朝時代から「王」の意味として、**イラン**で使用されていた。シャーの称号は、イスラームの時代に入っても使用されたが、定着したのはサファヴィー朝の時代とされている。ちなみに、**古代エジプトの君主**の称号は**ファラオ**。
- ③ 誤 **スルタン**という称号は、**セルジューク朝**のトゥグリル＝ベクがアッバース朝カリフより称号を得て最初に使用した。それ以降、この称号はスンナ派王朝で使用されることになった。ちなみに、マムルーク朝でもスルタンの称号は使用された。
- ④ **正** **ファーティマ朝**の君主は**カリフ**を称した。10世紀のイスラーム世界は3カリフ**ていりつ**鼎立時代と呼ばれ、後ウマイヤ朝・ファーティマ朝・アッバース朝の君主がみなカリフを称していた。11世紀以降、スルタンが政治的実権を握り始めると、カリフは宗教的行事にのみ関わることとなった。

## ◆整理 正統カリフ時代のカリフ

**アブー＝バクル**：最初の正統カリフ。ムハンマドの義父。

**ウマル**：ビザンツ帝国からシリア・エジプトを奪い、ニハーヴァンドの戦いでササン朝を破った。  
イスラーム暦を採用。

**ウスマーン**：ウマイヤ家出身で同族のものを優遇。暗殺された。

**アリー**：最後の正統カリフ。ハワーリジュ派に暗殺された。

## 問2 29 正解は①

難易度 ★★★☆☆

## 解説

新宗教や新宗派に関する問題。出題分野は、①が古代オリエント世界、②がオスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容、③が宗教改革、④が東アジアの激動である。誤っている選択肢をどのように修正したら正解になるかを自分で書いて確認すると知識が定着しているかがわかる。また、宗教改革時代に登場する人物と地域を混同することが多いので、確認しておきたい。

- ① 正 **アメンホテプ4世**は**唯一神アトン**の信仰を強制した。また、同時期に都をテーベからテル＝エル＝アマルナに移した。これらの背景には、アモン神の神官の政治的介入を回避しようという意図があった。
- ② 誤 **パーブ教**は**カージャール朝**によって弾圧された。パーブ教は**サイド＝アリー＝ムハンマド**によって創始されたシーア派の一派。1848年にカージャール朝の専制に対して反乱を起こしたが、鎮圧された。
- ③ 誤 **ツヴィングリ**は、1523年に**チューリヒ**で**宗教改革**に着手した。また、ツヴィングリ派の主張の一部はカルヴァン派に取り入れられた。一方で、**プラハ**で宗教改革に着手したのは、**フス**である。フスは、イギリスのウィクリフに共鳴してカトリック教会の改革を唱え、またチェク人の民族運動を指導した。ちなみに、**カルヴァン**は1541年に**ジュネーヴ**で宗教改革を開始した。
- ④ 誤 **白蓮教**は、明代末期に消滅していない。**白蓮教徒の乱**は**清代**にも勃発（1796-1804年）し、その乱の鎮圧では正規軍よりも郷勇とよばれる義勇軍が活躍したため、清朝の弱体化が露呈する一つのきっかけとなった。また、白蓮教は、南宋に始まったとされる民間の仏教系宗教結社。信徒には貧民が多く、彼らを救うために**弥勒**が現れるという**弥勒下生**信仰が説かれた。

## 問3 30 正解は②

難易度 ★★★☆☆

## 解説

イスラーム法の担い手や、イスラーム世界における政治運動に関する問題。出題分野は、①イスラーム文明の発展、②アジア・アフリカ地域の民族運動、③と④は地域紛争の激化と深刻化する貧困、である。④のイラン革命

は複雑なので、整理「**イラン＝イスラーム革命（イラン革命）**」を参照してほしい。

- ① 誤 法学などイスラーム諸学を修めた**知識人**は**ウラマー**と呼ばれる。彼らは、シャリーアの解釈・執行に携わり、次第に官僚化・保守化していった。ちなみに、**ウンマ**は、イスラーム教徒の共同体のことを指す。ムハンマドのメディナ移住後に、彼に率いられた信徒の共同体として成立した。
- ② 正 **イブン＝サウード**はワッハーブ王国（第1次サウード朝）を建てたサウード家の子孫で、1932年に**サウジアラビア王国**を建てた。1902年に回復したリヤドを現在の首都として、メッカ・メディナ両聖地を支配している。
- ③ 誤 **ターリバーン（タリバーン）**は、**アフガニスタン**の政権を掌握した。タリバーンはソ連軍撤退後の内戦に勝利し、**アフガニスタン**のほぼ全土を支配した。2001年のアメリカ同時多発テロ以降、アメリカ軍による報復攻撃と反ターリバーン勢力の攻撃を受けて、一時アフガニスタンでの支配権を失ったが、2007年前後に勢力を復活させ、テロ活動を活発化させている。
- ④ 誤 **カージャール朝が倒れたのは**、パフレヴィー朝を創始した**レザー＝ハーン**によってである。**レザー＝ハーン**は、1921年にクーデタを起して実権を握り、カージャール朝の廃止を議会で決定し、皇帝に推された。ちなみに、イラン＝イスラーム革命（**イラン革命**）によって倒れたのは**パフレヴィー朝**。

※**ワッハーブ王国** 18世紀以降に流行した、神秘主義を邪道とするイスラーム原理主義の**ワッハーブ派**が1744年ごろに建国した。この王国が後のサウジアラビアの前身とされている。1818年には、エジプト総督の**ムハンマド＝アリー**によって打倒された。

#### ◆整理 **イラン＝イスラーム革命（イラン革命）**

1951年：**モサデグ**首相が**アングロ＝イラニアン石油会社**の**国有化**を宣言。

しかし、国王派のクーデタでモサデグは失脚。

1953年：**パフレヴィー2世**が**王権強化**。

1963年：**白色革命**。国力は向上するが、貧富の差は拡大。

- ・西欧化政策による近代化
- ・ホメイニ氏の追放

1979年：**イラン革命**。指導者ホメイニ、国王パフレヴィー2世の親米・独裁政治に反抗。**イラン＝イスラーム共和国**成立。

- ・原理主義
- ・イラン民主主義
- ・反帝国主義

1980年：**イラン＝イラク戦争勃発**（～1988年）

## B

問 4 31 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

## 解説

ヨーロッパ諸国の海外植民地に関する正誤問題。出題分野は、a ヨーロッパ諸国の海外進出、b 世界分裂と列強対立、である。不正解だった場合、もう一度欧州諸国の植民地を地図と併せて覚えておこう。

- a 誤 ケベック植民地は、フランスによって建設された。当初は、フランスの北米植民地経営の中心であったが、1759年にイギリス軍によって占領された。
- b 正 ニューゼーランドは、1840年にイギリスの植民地となった。1907年には自治領となった。

## ◆整理 イギリス自治領の歴史

1867年：カナダ連邦成立。

1901年：オーストラリア連邦成立。

1907年：ニューゼーランド連邦成立。

1910年：南アフリカ連邦成立。

1921年：アイルランド自由国を自治領として承認。

1931年：ウェストミンスター憲章により、自治領は本国と対等の地位を獲得。

問 5 32 正解は④

難易度 ★★★☆☆

## 解説

キリスト教に関する問題。出題分野は、①、③、④がローマ世界、②が古代オリエント世界、である。②のような問題の対策として、どの宗教がどの宗教に影響を与えたのかを復習することで、宗教の形成の時期の前後が判別できるので、確認しておこう。

- ① 誤 ネロ帝は、キリスト教徒を迫害（64年）した。その際に、ペテロとパウロは殉教した。1世紀から4世紀までのローマ帝国では、キリスト教を弾圧する動きが強かったが、313年のミラノ勅令以降キリスト教を受け入れていく動きに転じた。
- ② 誤 マニ教が誕生したのは3世紀前半。キリスト教が誕生したのは1世紀。よって、マニ教がキリスト教の誕生に影響を与えることはできない。むしろ、マニ教は、ゾロアスター教にキリスト教・仏教の要素を融合してできた宗教であるため「キリスト教は、マニ教の誕生に影響を与えた」と選択肢を書き換えると正解となる。
- ③ 誤 『新約聖書』は、ギリシア語（コイネー）で記された。ちなみに『旧約聖書』はヘブライ語で記された。

- ④ 正 **カタコンベ**は、2 世紀から 4 世紀にキリスト教徒が迫害を受けていた頃、信教を守るために作られ、避難所・**礼拝所**として利用された。カタコンベが、現在の教会の前身とされている。

#### ◆整理 キリスト教の発展とローマ帝国

1 世紀後半：**ネロ帝**による迫害。

2 世紀：**信徒の増加**（社会的弱者→上層市民）、**カタコンベ**造営、『**新約聖書**』作成。

4 世紀：**ディオクレティアヌス帝**による最後の迫害。

313 年：**ミラノ勅令**でキリスト教を公認。

325 年：**ニケーア公会議**でアタナシウス派が正統となる。

392 年：**ローマ帝国**が国教化。

問 6 33 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

#### 解説

アメリカ大陸の文明に関する文の空欄補充問題。アメリカ大陸の文明に関する知識は混同しやすいため、「**整理 古代アメリカ文明**」で復習してほしい。また、地図で文明が興った地域を地図で確認し、問題にあるような「ユカタン半島」などの地名をいきなり挙げられてもひるまないようにしておきたい。

ア **マヤ文明**が入る。キーワードは、「中央アメリカのユカタン半島を中心に栄えた」「精密な暦法、絵文字…数学など、独自の文化や宗教が発達した」の 2 カ所。中央アメリカの**ユカタン半島**を中心に栄えた**マヤ文明**は、ピラミッドや神殿が発達していたことで有名である。

イ **二十進法**が入る。キーワードは、「アでは、精密な暦法、絵文字、イに基づく数字」。マヤ人は、すでにゼロの概念を持っており、**二十進法**を用いた。ちなみに**六十進法**は、**シュメール人**が発明し、現在用いられる角度・時間の単位のもととなった。

#### ◆整理 古代アメリカ文明

**マヤ文明**（4 世紀 -16 世紀）

中心地：ユカタン半島（中央アメリカ）

文字：**マヤ文字**

特色：**ピラミッド・神殿**と**暦法**が発達。

衰退：**16 世紀**に**スペイン人**によって滅亡。

**アステカ文明**（14 世紀 -1521 年）

中心地：メキシコ～パナマ，首都は**テノチティトラン**

文字：アステカ文字

特色：神権政治を展開。

衰退：1521年に**コルテス**によって滅亡。

**インカ文明**（1200年頃-1533年）

中心地：アンデス高地（南アメリカ），首都は**クスコ**

文字：**キープ**（結縄）

衰退：1533年に**ピサロ**によって滅亡。

## C

問7 34 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

### 解説

仏教に関する問題。「誤っているものを選ぶ」ことに留意する。出題分野は、①ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展、②インドの古典文明、東アジア文化圏の形成、③東南アジアの諸文明、④東アジア諸地域の自立化、など。この問題は、誤っている選択肢の誤りの部分が基本知識でもあるのでわかりやすい。ただ、ほかの正しい選択肢の内容も、もう一度確認しておこう。特に、東南アジアで大乗仏教と上座部仏教のどちらが信仰されるようになったのかは、その理由も含めて確認しておいたほうがよい。

- ① 正 タイの**アユタヤ朝**では、**上座部仏教**が信仰された。アユタヤ朝は、**港市国家**として繁栄し、海洋交易が盛んであった。また、西欧諸国とも活発な外交・通商関係を結んでいたことでも有名である。トゥングー朝の侵入によって衰え、コンバウン朝に滅ぼされた。
- ② 誤 **玄奘**は**インド**から仏典を持ち帰った。彼は、ハルシャ王の厚遇を受け、**ナーランダー僧院**で学び、645年に陸路で唐に帰国した。その後、仏典の漢訳に勤め、『**大唐西域記**』を著した。
- ③ 正 **シュリーヴィジャヤ**では、**大乗仏教**が隆盛した。唐の**義浄**<sup>ぎじょう</sup>もインドからの帰国の途中でここを訪れている。シュリーヴィジャヤは、マレー人らがスマトラ島東南部を中心に建てた王国で、**パレンバン**を中心に、海上交通の要衝を支配して繁栄した。
- ④ 正 **高麗**では、**木版印刷**による『**高麗版大藏経**』が刊行された。高麗は**開城**を都とし、936年に朝鮮半島を統一した。唐や宋の制度や文物を摂取し、**仏教を保護**した。13世紀には**モンゴル**の侵入を受けて服属した。14世紀半ばには**倭寇**の侵入に苦しみ、**李成桂**<sup>りせいけい</sup>によって滅ぼされた。

## ◆整理 インドに行った中国の僧

ほっけん  
法顕 (東晋→ Gupta 朝) : 往 = 陸路, 復 = 海路, 『仏国記』を著す。

げんじょう  
玄奘 (唐→ヴァルダナ朝) : 往復陸路, 『大唐西域記』を著す。

きき  
義浄 (唐→分裂期) : 往復海路, 『南海寄帰内法伝』を著す。

## 問 8 35 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

出題分野は、アジア諸国の改革と民族運動。19 世紀後半の中国における宗教を巡る対立に関する文の空欄補充問題。キーワードがおさえられていれば、難しい問題ではない。他の選択肢の内容（新文化運動・上帝会 = 拝上帝会）も確認しておこう。

ア 仇教運動が入る。キーワードは、「19 世紀後半の中国」と「反キリスト教運動」の 2 カ所。19 世紀後半に中国で起こった反キリスト教運動は仇教運動と呼ばれる。1858 年の天津条約、1860 年の北京条約でキリスト教布教が認められて以降、キリスト教と中国民衆の生活習慣や感情との間に摩擦が生じることが多々あった。1856 年のフランス人宣教師殺害事件（アロー戦争の契機）や、1897 年のドイツ人宣教師殺害事件なども反キリスト教感情から生まれたものである。

イ 義和団が入る。キーワードは、「扶清滅洋」を唱える…による排外運動」。扶清滅洋を唱えたのは、義和団。義和団は、山東省を根拠地とした白蓮教の宗教結社。ドイツの山東半島への進出・キリスト教布教に対する反感から武装蜂起し、義和団事件を起こした。

※新文化運動 1910 年代に、知識人・青年・学生らが中心となって起こった啓蒙運動。文学革命との類似点が多い。ヨーロッパ近代文化を紹介し、儒教・封建思想を批判し、五・四運動にも大きな影響を与えた。

※上帝会（拝上帝会）19 世紀半ばに洪秀全を中心組織されたキリスト教的宗教結社。上帝はヤハウェのことを指す。滅満興漢を唱えた。

## 問 9 36 正解は③

難易度 ★★★★★

## 解説

アジアのナショナリズムに関する正誤問題。出題分野は、a アジア・アフリカ地域の民族主義、b アジア諸国の改革と民族運動、である。a に関しては、党の代表者とセットで覚えておくと、その党がどの国で独立運動を主導していたか判別ができる。b に関しては、キーワードとしてスワデーシ（国産品愛用）が登場したので、カルカッタ 4 綱領を確認しておこう。

a 誤 タキン党がイギリス支配に対する独立運動を主導したのは、ヒルマ。このときタキン党書記長を務めて

いたのが、**アウン=サン**。1948 年にビルマ（現在はミャンマー）はイギリスから独立した。ちなみに、**フィリピン**は 1934 年にアメリカから自治が承認され、10 年後の独立が約束された。**アメリカ**からの完全独立は 1946 年に達成された。

- b 正 インドの**国民会議派**は 1906 年に**カルカッタ大会**を開催し、**4 綱領**を採択した。その内容は、**英貨排斥**、**スワデーシ**（国産品愛用）、**スワラージ**（自治獲得）、**民族教育**。この動きに対して、警戒心を高めたイギリスは、ヒンドゥー教徒とムスリムがインドに混在し対立していることを利用して**全インド=ムスリム連盟**の組織を支援した。

（制作：重森理瑛，的場光紀）